

当社は、徳島県那賀町が有する文化的景観「鷺敷ライン」の保存活用に向けた計画策定を支援しました。那賀川沿いに広がるこのエリアは、歴史的景観や希少な植生、地域の生活文化が融合する貴重な資源であり、文化財保護の観点からも極めて重要な地域です。

計画策定においては、まず鷺敷ラインの空間的範囲の定義が大きな課題となりました。那賀川は国が管理する一級河川であるため、町独自で明確な区間設定を行うには制約が多く、また実測による河川測量には多大なコストと時間を要します。そこで、那賀川両岸における地籍図および登記地図情報等の筆界データを活用し、GIS上で地域住民にとって親しみのある景観範囲を的確に抽出する手法を導入しました。これにより、合理的かつ客観的な範囲設定が可能となり、地域との合意形成もスムーズに進めることができました。

また、計画の特色として特筆すべきは、環境と文化の融合的視点です。鷺敷ラインには、環境省レッドリストで絶滅危惧種に指定される「ナカガワノジギク」の自生地が点在し、那賀町独自の変種とされる「ワジキギク」も確認されています。これらの希少植物は単なる自然資源では

なく、地域の歴史や風土と深く結びついた文化的財産であり、その保全と活用の両立を図ることが、本計画の根幹でした。

本業務は、文化的景観の保存と地域振興のバランスを図りながら、計画の実効性と持続性を確保するという点で、文化財保存活用計画のあり方に一石を投じる取り組みとなりました。

本業務を通じて得られた成果や手法は、他の地域における文化財や自然資源の保存・活用においても参考になるものと考えています。特に、地域特性を尊重しながら、環境と文化を融合させたアプローチは、持続可能な地域の振興において重要な要素であり、今後の計画策定においても有益な指針となるでしょう。

地域の発展と文化財保護が両立する形で、鷺敷ラインがさらに多くの人々に愛される場所となることを心より願っております。

